

第4次富士見町子ども読書活動推進計画

令和7年3月

富士見町教育委員会

はじめに	1
第1章 策定にあたって	2
Ⅰ. 計画策定の趣旨	2
Ⅱ. 計画の期間	2
Ⅲ. 計画の対象	2
第2章 第3次計画の検証	3
Ⅰ. 第3次計画の基本目標	3
Ⅱ. 第3次計画の基本方針	3
Ⅲ. 第3次計画の検証（課題/取組/成果）	4
1. 保育園	4
2. 学校（小学校・中学校・高等学校）	5
3. ボランティア団体（ふじみ子どもの本の会・富士見朗読の会）	8
4. 町図書館	9
第3章 第4次計画の目標と方針	10
Ⅰ. 国の取組を推進する視点	10
Ⅱ. 基本目標	11
Ⅲ. 基本方針	11
第4章 子どもの読書活動推進のための取組	12
Ⅰ. 家庭における読書活動の推進	12
Ⅱ. 保育園における読書活動の推進	12
Ⅲ. 学校（小学校・中学校・高等学校）における読書活動の取組	14
Ⅳ. ボランティア団体（ふじみ子どもの本の会）における読書活動の推進	15
Ⅴ. 町図書館における読書活動の推進	16
資料（アンケート結果）	19

はじめに

読書は、子どもにとって言葉を学び、感性を磨き、表現力を育むうえで欠かせない大切な活動です。読書は、子どもに大きな喜びを与えるとともに、その成長を促し、人間形成にも大きな影響を与えます。また、本を通じてさまざまな価値観に触れることで、複雑で変化の激しい現代社会を乗り越え、豊かな人生を切り開く基盤となります。

現在、子どもを取り巻く読書環境は大きな変化を迎えています。新型コロナウイルス感染症の拡大により教育のデジタル化が進み、GIGA スクール構想（※1）のもとで学校の ICT 環境（※2）が整備され、一人一台のタブレット端末を活用した授業が普及しています。また、子どもたちのライフスタイルの多様化や多忙化により、読書の時間がさらに減少することが懸念されています。

国は、子どもの読書離れに歯止めをかけるため、「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成 13 年制定）に基づき、「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。令和 5 年 3 月に策定された第 5 次計画の方針では、不読率の低減や多様な子どもたちの読書機会の確保、さらにデジタル社会に対応した読書環境の整備や、子どもの視点に立った読書活動を推進することが明記されています。

長野県では、平成 16 年に「長野県子ども読書活動推進計画」を策定し、令和 2 年に策定された「第 4 次長野県子ども読書活動推進計画」では、「豊かな読書を子どもたちに ～発達段階に応じた取組～」を基本理念としています。

富士見町でも、国と県の動向を踏まえ、平成 22 年に「富士見町子ども読書推進計画」を策定し、その後 5 年ごとに計画を見直し、子どもの読書活動の整備が進められてきました。

本計画は第 4 次計画にあたります。社会情勢の変化を踏まえ、これまでの子ども読書活動に関する取り組みを検証しながら、子どもが他者と関わりながら生活の中で読書に親しみ、心豊かに生きる力を育むことができるよう、さらに一層の読書活動の推進を図ります。

※1 GIGA スクール構想：2019 年に開始された、全国の児童・生徒 1 人に 1 台のコンピューターと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組み

※2 学校の ICT 環境：学校教育においてコンピューターやタブレット端末、インターネットなどの ICT（情報通信技術）を活用するための環境

第1章 策定にあたって

I. 計画策定の趣旨

国は、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、子どもの読書活動のための環境整備の必要性を示しました。そして、この法律に基づき、概ね5年間にわたる施策の基本的な方向性と具体的な方策を示した「子どもの読書活動に関する基本的な計画」を策定し、子どもの読書活動を推進しています。

富士見町においても、この法律に基づき、平成22年4月に「富士見町子ども読書活動推進計画」を策定し、その後、更なる読書推進を目指して、平成27年度に第2次計画、令和2年度に第3次計画を策定し、子どもの読書活動を推進するためのさまざまな活動に取り組んできました。

今回、第4次計画にあたる本計画においては、子どもを取り巻く社会環境の変化に対応した読書環境の整備及び第3次計画の取組等を検証し、今後5年間の方向性を示す「第4次子ども読書活動推進計画」を策定するものです。

II. 計画の期間

この計画の期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。

III. 計画の対象

この計画の対象年齢は、0歳から概ね18歳の子どもとします。子どもの発達過程に即した読書活動を推進するために、家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館を対象とします。

第2章 第3次計画の検証

令和2年3月に策定した第3次計画においては3つの基本的方針を掲げ、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

I. 第3次計画の基本目標

「本と遊び、本に学ぶ」子どもを育てる

- ・子どもたちが本に親しみ、学ぶことや知ることに喜び、読書活動を通じて感じることができる。
- ・本に対する興味を持ち、自ら進んで読書活動ができる。
- ・自分を取りまく世界とのつながりを、読書活動を通して感じ、世界観を拡げる。
- ・読書活動を通して得た情報や思考力、判断力、表現力を、人生に活かす。

II. 第3次計画の基本方針

(1) 読書活動への子どもの意欲的態度「本と遊び、本に学ぶ」子どもの育成

- ・読書を習慣に、生涯の糧とするために、子どもの読書活動への意欲的態度を培うこと。
- ・早い時期から子どもたちが本に親しむ環境づくりや、子どもが育つために読書推進の重要性を理解していくことを深める。
- ・子どもの読書への関心を高めるために、個人の読書経験や興味に寄り添いながら本を紹介する。

(2) 家庭・保育園・学校・地域による子ども読書活動の推進

- ・本に親しむことができる環境づくりを進めるため、関係機関やボランティア団体等が綿密に連携して、相互の協力による取組を推進する。
- ・図書館以外の社会教育施設等との連携強化を進める。
- ・「読んでもらい楽しむ」ことから、「自分で読み楽しむこと」へのスムーズな移行とともに、本に触れる時間の確保が大切。関係各団体が役割を果たし、連携を持った取り組みをする。

(3) 子ども読書活動への啓発

- ・子どもの楽しく意欲的な読書活動を推進する環境作りのため、子どもの読書活動を実施する意義・重要性についての普及・啓発をする。
- ・「子ども読書の日」の趣旨に合う行事を実施し、具体的な啓発活動を展開する。
- ・子どもの読書活動の実態や情報を収集し、啓発活動に活かすような取組をする。

Ⅲ. 第3次計画の検証（課題/取組/成果）

1. 保育園

課題① 子どもが絵本に興味を持てるような環境づくり

◇取組

- ・毎日、全クラスで読み聞かせを実施しました。年齢や発達段階、季節などに応じた絵本を選び、子どもたちの興味や関心を尊重しながら、楽しめる工夫をしました。
- ・絵本の整理整頓や、おすすめの絵本コーナーを設置するなど、子どもたちが絵本を気軽に触れられる環境づくりを進めました。
- ・図書館職員やボランティアの方々による読み聞かせの機会を設けましたが、新型コロナウイルス感染症への配慮のため実施できませんでした。
- ・保育士が絵本に親しむとともに、研修会などに参加することで、絵本に関する知識を深めることができました。
- ・図書館との連携を図り、絵本に触れる機会を増やしました。

◇成果と課題

- ・読み聞かせの実施や、絵本を子どもたちの目に触れる場所に配置するなど、絵本に接する機会を積極的に設けた結果、子どもたちの絵本への興味が高まりました。また、図書館訪問の行事を取り入れることで、更に絵本への関心を深めることができました。
- ・図書コーナーにおける絵本の置き方を工夫することにより、子どもたちが絵本を手に取りやすくなり、利用する機会が増えました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちの状況も変化中、ボランティア団体にも協力を求め、様々な環境で絵本に触れる機会を増やしていきます。

課題② 読み聞かせの大切さを知らせるための保護者への啓発

◇取組

- ・園便りや「富士見町家庭読書の日どくしょカード」、絵本の展示を通じて絵本の紹介を行い読み聞かせの重要性を伝えるよう努めました。
- ・未就園児の会では読み聞かせを実施し、絵本の楽しさや絵本を通した親子の触れ合いの時間の大切さを伝えました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、絵本の貸し出しが月1回に制限され、家庭での読み聞かせの機会が減少してしまいました。

◇成果と課題

- ・参観日などで、保育士による読み聞かせを見てもらったり、親子で実際に読み聞かせを体験したりする機会を設け、保護者に読み聞かせの楽しさを実感していただきました。引き続き保護者に対して家庭での読み聞かせの大切さや意義について啓発することが重要です。

2. 学校

【小学校】

課題① 読書センターとして

- ・学年に応じた図書を選べない児童がいます。また、本を読む児童と読まない児童の差が高学年になるほど大きくなっています。
- ・習い事やゲーム、スマートフォンの普及により、子どもたちの時間の使い方が多様化しており、家庭での読書時間が減少しています。

◇取組

- ・子どもたちが自分のおすすめの本を発信する場を設けました。4年生の国語の授業では、本のポップや帯を作成して展示を行いました。
- ・月に2回程度、ボランティア団体や保護者、教師による読み聞かせを実施しました。
- ・「家庭読書の日」が位置付いているので、学校だけでなく家庭でも読書の時間を設けてもらうよう、毎回呼びかけました。

◇成果と課題

- ・展示活動を通じて、児童たちに本に興味を持たせることができ、多くの児童が本を借りるようになり、読書活動の推進につながりました。
- ・普段と異なる雰囲気の中で行われるボランティア団体や保護者による読み聞かせでは、児童たちが楽しみにしている様子が見られ、本に親しむことができました。また、ボランティア団体によるブックトークでは、さまざまなジャンルの本に触れることで、読書の幅が広がりました。
- ・「家庭読書の日」などを通じて「家読（うちどく）」を呼びかけましたが、まだ定着していないと考えられます。家庭ごとにとらえ方が異なるため、保護者に対して趣旨や方法についての情報提供が必要です。
- ・アンケート結果から、「本を読むことが好き」という児童は小学校段階で定着しており、読書習慣はその後の学年にも継続する可能性が高いことがわかりました。したがって、幼児や小学生の頃に読書に親しむことが重要であると考えられます。

課題② 学習・情報センターとして

児童生徒や教員が必要とする情報を収集し、提供します。

◇取組

- ・各学年で習得すべき力を明確にし、資料の探し方、集め方、選び方、記録の取り方、比較検討、情報のまとめ方などを学ぶための計画（図書館教育年間計画）を年度初めの職員会議で確認し、実施しています。
- ・国語や総合的な学習の時間などで、調べ学習の充実を図っています。

◇成果と取組

- ・教科担任や図書館教諭と連携し、学校図書館の資料の充実を図ることができました。今後も継続して、全教科・領域における学習を支えるための資料収集に努める必要があります。

課題③ 職員研修や情報共有

◇取組

- ・図書館教育のための職員研修を実施しました。
- ・各校間の格差をなくすため、学校の図書館教育担当者会を設け、情報交換をしながら進めました。

◇成果と課題

- ・学校図書館指導員連絡会を通じて、各学校図書館の情報交換や相互貸出について連携をとることができました。
- ・子ども読書活動推進委員会は年に2回開催されていますが、活動報告にとどまっているため、情報交換の場として充実させる必要があります。

【中学校】

課題① 図書館に行く時間がない

授業準備や移動教室などのため、図書館に行く時間が確保できないことがあります。また、休み時間には生徒が委員会活動や行事準備を行っているため、図書館に行くことを後回しにすることや、友達と過ごす時間を優先したいという理由もあります。

◇取組

- ・学年図書委員会の活動において、読書への関心を高めるために多くの本に触れる機会を設けました。
- ・総合的な学習の時間や教科学習の中で、問題解決学習や探究学習を取り入れ、図書館を活用する機会を増やしました。

◇成果と課題

- ・授業で図書館を利用し、資料を自分で探して調べることを通じて、自主学習の習慣が身につくにつれ、主体的に学ぶ姿勢が育まれました。
- ・学校図書館では、生徒が主体的に学習できるよう、資料の整備と提供が求められます。

課題② 図書館を活用しきれていない

本を読むことや借りることは好きでも、「返却する」という行為が面倒に感じられるため、本を借りなくなる傾向があります。

◇取組

生徒会図書委員会が、読書旬間（春・夏・冬）の期間に図書館に来たいと思えるような企画を考えて活動しました。

◇成果と課題

生徒会図書委員会の工夫により、興味を引く本の紹介が行われ、図書館の利用が促進されました。また、学校図書館は情報の収集、評価、利用方法を学ぶ場として活用されることが求められています。

課題③ 読書習慣が定着していない

- ・帰宅後、読書する時間がもてない。

帰宅後、塾や習い事、家庭学習など、やるべきことが多く、タブレットやゲームに親しんできた生徒も多いため、読書に充てる時間を確保することができません。

- ・小さい頃から読書の習慣が定着していない児童も少なくない状況です。

◇取組

- ・毎朝 8 時 20 分から 8 時 30 分の 10 分間を朝読書の時間として設定し、学校全体で落ち着いた雰囲気の中で読書を行っています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で一時中断した時期もありましたが、ボランティア団体や町図書館の協力を得て、読み聞かせを実施しました。

◇成果と課題

- ・朝読書の活動を通じて、読書への親しみが育まれています。朝読書の習慣化が重要であり、読書習慣の定着に向けた取組を続けていく必要があります。
- ・読み聞かせを通じて、本の楽しさが伝わり、生徒が本に対する興味を深め、自発的に読書を行う良い機会となりました。

課題④ 学校で図書館を活用する場を設定しにくい

ICT教育が進み、紙媒体から情報や資料を集める機会を設定するのが難しい状況です。

◇取組

一人一台の端末を使って調べ学習を行うこともありますが、調べる方法は必ずしも一つではないため、生徒が選択できるように指導しています。また、インターネットから得た情報が正確かどうかを確認することも学習指導の中で重要視しています。その際、図書館の資料は情報の正確性を確認する上で重要な役割を果たします。

◇成果と課題

- ・さまざまな調べ方を指導することで、生徒は自分に適した方法を選び、自主的に学習を進める力を養っていると考えられます。
- ・図書館資料とインターネット情報の複数の情報にあたり、信頼性を検討することにより、さらに正確な情報を集めてまとめていくというリテラシーを高める必要があります。

【高等学校】

課題① 多くの生徒の中には学ぶことや知ることに消極的な生徒もいる

◇取組

- ・読書の意義や朝読書を継続する意図を明確にして、読書への意識づけを行いました。
- ・委員会活動を軸にした幅広い読書活動を通じて、生徒の本への興味を促進しました。
- ・各自のタブレットで蔵書検索や予約・リクエストが出来るツールを取り入れ、生徒が主体的に資料の情報を得られる環境を整備しました。
- ・養護学校分教室の生徒を含め、読書バリアフリー法に基づいた図書選定情報を共有し、読書および学習支援に努めました。
- ・安心して過ごせる居場所としての環境を保持しました。

◇成果と課題

- ・読書環境を整備し、読書への関心が薄れないように目新しい活動を継続してきた結果、全体的に読書への興味や意識は維持されています。
- ・公共図書館との連携を深め、多様な資料を提供することで、生徒一人ひとりが適切な本に出会い、読書経験を積み重ねていけるように今後も働きかけを継続する必要があります。

3. ボランティア団体

【ふじみ子どもの本の会】

課題① 子どもたちに「本は楽しい！面白い！役に立つ！」と伝え、心豊かに育つことを願って、ボランティア活動のあり方を検討します。

◇取組

- ・町図書館で開催する「土曜日おはなし会」や行事（子ども読書の日スペシャル、図書館まつり、クリスマスおはなし会）に協力しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で活動が一時中断しましたが、活動が再開された学校において「読み聞かせ」や「出前おはなし会」を行いました（富士見小学校、境小学校、本郷小学校、諏訪養護学校）。
- ・読書の楽しさを広げるために「よんでみない？」を発行し、さまざまな本を紹介しました。
- ・土曜日のおはなし会には、始めたころに比べて低年齢の子どもが増加したため、幅広い年齢層の子どもや大人にも参加を呼びかけました。
- ・読み聞かせだけでなく、本の紹介や、「図書館まつり」などの大きなおはなし会向けプログラムについても検討しました。
- ・マナー化を防ぐため、新しい本を知り、良い本を選ぶ目を養うために、会員相互の研修会を開催しました。
- ・外部研修や講座の情報を共有し、参加することで読み聞かせ技術の向上に努めました。

◇成果と課題

- ・図書館での読み聞かせやイベントに協力することで、乳幼児や保護者に触れ、読書の楽しさを伝えることができました。また、学校に出向き、読み聞かせボランティアを通じて児童生徒にも読書の楽しさを伝えることができました。
- ・学校での読み聞かせ活動を長年続けてきたことがきっかけとなり、学校では保護者や地域の方々が参加する「読み聞かせ」体制が整いました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で活動が中断された学校や、読み聞かせの機会がなかった保育園に対しては、活動再開に向けて引き続き協力していきます。

【富士見朗読の会】

課題①

- ・内面豊かな語り手を目指し、ジャンルにとらわれず「読む・語る」の学びを継続していきます。
- ・依頼を受けた機関に応じていきます。
- ・教育機関へはさらに理解を求め「ふじみ町の民話」や「方言」の伝承活動を行います。
- ・会の存在と活動内容を、教育機関、図書館、施設、町民に広くアピールし、朗読マナーの向上に努め、自己満足にとどまらない朗読活動を行います。

◇取組

- ・内面を豊かにし、より良い語り手を目指して、ジャンルを問わず「読む・語る」の学びを続け、その成果として発表を行いました。
- ・依頼された施設に積極的に対応し、教育機関にもさらに理解を求め、「ふじみ町の民話」

や「方言」の伝承活動を行いました。

◇成果と課題

- ・学校で民話の「読み聞かせ」や「読み語り」を行うことにより、新しい単語や表現に触れ、生徒の言葉の理解力向上に繋がりました。引き続き、この取り組みを継続していきます。

4. 町図書館

課題① 保育園・学校・ボランティア団体・保健センターとの連携

◇取組

- ・ボランティア団体の協力のもと、毎週土曜日におはなし会を開催しています。
- ・保健センターで行われる7ヶ月児・10ヶ月児健診では、読み聞かせを実施し、発達段階に応じた絵本の紹介や図書館利用案内を行っています。
- ・町内保育園および小学校で行われる、図書館見学の受け入れを積極的に行い、図書館司書による読み聞かせの実施や貸出体験を通じて、図書館を身近に感じてもらうようにしています。

◇成果と課題

- ・毎週土曜日のおはなし会やイベントでは、ボランティア団体と連携して親子で読書に親しむ機会を充実させました。また、保育園や小学校の行事として図書館見学を受け入れ、図書館で楽しく過ごし、親しみを持ってもらうことができました。
- ・保育園や学校などの行事だけでなく、小学生向けのイベントも充実させ、日常的に図書館を利用し、読書活動を行いやすい環境の整備が求められています。

課題② 絵本や読書に関心を持つ環境づくり

◇取組

- ・毎月第3日曜日を「家庭読書の日」と定め、貸し出し冊数を20冊まで増やし、家族で利用しやすい環境を提供しています。
- ・主に未就学児を対象に毎週火曜日におはなし会を開催し、さらに「のりものおはなし会」や「どうぶつおはなし会」を通じて、親子で絵本に親しむ機会を提供しています。
- ・保育園や小学校では「富士見町家庭読書の日 どくしょカード」を配付し、家庭での読書環境づくりを促進しています。
- ・図書館では、利用者が自分で本を借りることができる「セルフ貸出機」を設置し、貸出体験を通じて図書館への関心を深めてもらいました。
- ・ホームページを定期的に更新し、おはなし会をはじめとするイベント情報や新刊情報を提供しています。

◇成果と課題

- ・アンケート結果によると、小学校では「富士見町家庭読書の日 どくしょカード」を通じて「家庭読書の日」が児童に広まっています。しかし、保護者には毎月20冊貸し出しが行われている日については広く認知されていますが、その日が「家庭読書の日」であることやその趣旨についてはあまり知られていないことがわかりました。
- ・家庭読書の日について、より効果的な広報・啓発の方法を検討していく必要があります。

第3章 第4次計画の目標と基本方針

I. 国の取組みを推進する視点

急激に変化する時代において、子どもたちに必要とされる資質・能力を育むためには、読解力や想像力、思考力、表現力などを養う読書活動の推進が不可欠です。すべての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、以下の点を考慮し、社会全体で子どもの読書活動を推進します。

1. 不読率の低減

不読率の低減とは、1 か月の間に読書を全くしない子どもの割合を減らすことを指します。子どもの自主的な読書活動を促進するためには、家庭、地域、学校、図書館がそれぞれの役割を果たし、子どもの発達段階に応じたサポートを行うことが必要です。これにより、子どもが読書に親しむ習慣を定着させ、継続して楽しむことができるようになります。特に不読率の高さが課題となっている中学生・高校生に対して、読書への関心を高めてもらえるよう、需要の高い資料の提供やイベントの開催、ホームページ等を活用した情報発信を行います。

2. 多様な子どもたちの読書機会の確保

さまざまな背景やニーズを持つすべての子どもたちが平等に読書にアクセスできる環境を整えます。読書バリアフリー法を踏まえ、障がいのある子どもたちが利用しやすい書籍や電子書籍の充実を図り、日本語以外の母国語を持つ子どもたちのために多言語本や資料を収集します。また、家庭環境を含む多様な子どもたちの読書機会を確保するため、読書環境の整備にも力を入れます。

3. デジタル社会に対応した読書環境の整備

GIGA スクール構想等の進展を踏まえ、子どもたちに言語能力や情報活用能力を育むとともに、多様な子どもたちの読書機会の確保や、非常時における図書等への継続的なアクセスが可能となる環境の整備が求められます。そのため、電子書籍の導入などデジタル化を推進します。

4. 子どもの視点に立った読書活動の推進

子どもの発達段階に応じて、読書が楽しいものと感じられるようにすることが重要です。一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な読書活動を促進するためには、おすすめ本の紹介やイベント企画など、活躍の場を提供することが必要です。

Ⅱ．基本目標

すべての子どもが読書に親しみ、読書体験を通じて心豊かに、生きる力を育むことができる環境をつくる

子どもの読書活動は、子ども自身が読書の楽しさを知ることに加え、読書体験を通じてさまざまな言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、思考力を育みます。これにより、豊かな心としなやかに生きる力を養うことができる環境づくりを目指します。

Ⅲ．基本方針

この計画の基本目標を実現するため、国が令和5年3月に示した「第五次 子どもの読書活動に関する基本的な計画」に基づき、次の4つの基本方針を柱に据え、家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館が連携・協力し、子どもの自主的な読書活動を推進します。

(1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさや大切さを実感できるよう、家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館などの身近な場所で、子どもが読書に触れ、親しむことができる機会を幅広く提供します。また、子どもの発達段階に応じた読書活動支援を行い、子どもが継続的に読書を楽しむことができる力を育成し、不読率の低減を目指します。

(2) 子どもの読書環境の整備・充実

子どもが興味を持ち、感動を覚える良質な本を身近に整えるとともに、デジタル社会への対応を含めた読書環境の整備・充実を図ります。さらに、バリアフリー資料の収集や整備を進め、多様な子どもたちに対する読書機会の確保に努めます。また、保育士や学校の教職員、ボランティア団体、図書館職員など、子どもの読書活動を支える人材の育成や活動支援にも取り組みます。

(3) 子どもの読書に関する理解の促進

子どもたちの身近にいる大人に対して、児童書や子どもの読書に関する活動情報を幅広く提供するとともに、本計画の周知を行い、子どもが本を読むことの意義や大切さについて啓発を進めます。また、子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを推進し、子どもの読書活動に対する理解を深め、社会全体で子どもの視点に立った読書活動を支える気運を高めます。

(4) 家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館などの連携・協力

家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館など、子どもの読書活動を支えるさまざまな主体が相互に協力し、連携を図りながら計画を推進します。

第4章 子どもの読書活動の推進のための取組

I. 家庭における読書活動の推進

1. 家庭の役割

家庭は、子どもの生活の基本となる場であり、子どもが本と初めて出会う場でもあります。子どもが読書の習慣を身につけるためには、最も身近な存在である保護者からの積極的で継続的な働きかけが大きな役割を果たします。家庭においては、親子で読書に親しむ時間を持ち、読み聞かせをしたり、図書館に出かけたりするなど、子どもが読書に親しむきっかけをつくることが重要です。

2. 家庭における取組

(1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

① 乳幼児が本に触れるきっかけづくり

7ヶ月児・10ヶ月児健診において、大型絵本の読み聞かせや乳幼児におすすめの絵本を紹介します。また、おはなし会への参加促進や図書館利用案内を行い、利用登録をした親子に図書館袋をお渡しするなど、図書館利用のきっかけを提供します。

② 家庭での読書推進の支援

家族や身近な人とともに読書に親しみ、読書を通じて話題や関心を共有する「家読（うちどく）」の推進を図ります。そのため、発達段階に応じたおすすめ本の情報提供や親による読み聞かせの意義を伝えるなど、家庭での読書を支援します。

II. 保育園における読書活動の推進

1. 保育園の役割

保育園等においては、子どもたちが絵本や物語と出会い、豊かな言葉に触れる機会を多くすることで、言語感覚を養い、想像力を育み、豊かな心を育むことが期待されています。これは、国の定める保育所保育指針においても、絵本や物語に親しみ、興味を持って聞き想像する楽しさを味わうことが重要視されており、本に親しむ活動の充実が求められています。

また、園児や未就園児の保護者に対して、読み聞かせの重要性について啓発を行い、家庭においても子どもが絵本に触れる機会を増やすよう支援することで、子どもの読書活動の推進を図ることが期待されています。

2. 保育園における取組

(1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

① 読み聞かせの実施

日常の保育の中で絵本の読み聞かせを継続的に行います。また、発達段階に合わせて、季節や行事に関連した読み聞かせも実施します。

② 絵本の貸出

保育園では、週に1回、保育園の本を家庭へ貸し出し、家庭でも親子一緒に読書を楽しむ機会を提供します。

(2) 子どもの読書環境の整備・充実

① 図書資料の充実

保育園においては、子どもの発達段階に応じた絵本の整備を行い、町図書館からの本の借り入れなどを通じて絵本コーナーを充実させ、子どもたちが自由に絵本に触れることができる環境を整備します。

② 研修の実施

職員研修等を通じてスキルアップを図り、読書の意義について職員間で日常的に共通理解を深めるよう努めます。

(3) 子どもの読書に関する理解の促進

① 情報提供・啓発

保育園だよりの発行や保育参観、懇談会等の機会を通じて、絵本の楽しさや読み聞かせの重要性について保護者に継続的に啓発を行います。また、保育園で読み聞かせを行った絵本やおすすめの絵本を紹介し、家庭での読書活動の充実を図ります。

② 「富士見町家庭読書の日 どくしょカード」の活用

家庭への働きかけとして、子ども読書活動推進委員会が発行する「富士見町家庭読書の日 どくしょカード」を活用し、親子で読書に親しむ機会を提供します。これにより、家庭内での読書活動の促進を図ります。

(4) 家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館などの連携・協力

① ボランティアや町図書館等の連携

- ・さまざまな人による読み聞かせを通じて、子どもたちが幅広い絵本に触れる機会を提供します。これにより、異なる視点や読み方で絵本を楽しむことができ、子どもたちの興味や関心をさらに広げることが期待されます。
- ・保護者の方々には、読み聞かせボランティアとして積極的に参加していただく機会を設けます。保護者の方々の温かく個性豊かな読み聞かせを通して、絵本の世界を楽しめます。
- ・町図書館と連携し、定期的に絵本を借りてくるなど、園内の図書を充実させます。また、町図書館での読み聞かせに参加する機会を増やすことで、子どもたちが絵本に親しむ機

会をさらに多く提供します。

② 絵本の紹介や読み聞かせの実施

さまざまな題材の絵本や物語を取り上げ、子どもたちの興味や関心を広げることができるよう、読み聞かせを実施します。これにより、子どもたちが絵本の世界に深く入り込み、豊かな想像力を育むことができるよう支援してまいります。

Ⅲ. 学校における読書活動の推進

1. 学校の役割

児童生徒の読書習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っています。国の「子ども読書活動推進計画」に基づき、学校教育法第 21 条では、読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し使用する能力を養うことが義務教育の目標として定められています。

児童生徒が生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するため、学校は、自由に読書を楽しみ、幅広い書籍に触れる環境を整え、発達段階に応じた指導を行うことが求められます。また、各教科での言語活動を通じて、読書習慣の定着を支援することが重要です。

2. 学校における取組

(1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

① 読書時間の確保

アンケート結果から、始業前の「朝読書」や授業中に多くの読書が行われていることがわかりました。これを踏まえ、今後も全校一斉読書や授業内での「読書の時間」の継続的な導入を進めます。

② 読書指導の充実

児童生徒の読書意欲を高めるために、すべての教科で様々な文章や資料を読む活動を行います。また、学校図書館や町図書館の機能を活用した授業も展開します。

(2) 子どもの読書環境の整備・充実

① 多様な子どもたちの読書機会の確保

障がいの有無や母国語に関わらず、すべての児童生徒が読書に親しめるよう、町図書館の貸出サービスを活用し、図書を整備を行います。

② 学校図書館の情報化の推進

GIGA スクール構想により整備された 1 人 1 台端末を活用し、学習活動を支援する学習センターとして、また情報活用能力を育む情報センターとしての機能のさらなる充実を図ります。

③ 読書センターとして

児童生徒が読書への興味・関心を高め、読書習慣を身につけるため、発達段階に応じたさまざまな図書の紹介をします。

④ 学習・情報センターとして

・各学年で育むべき力を明確にし、資料の探し方・集め方・選び方・記録の取り方・比較検討・情報のまとめ方などを学ぶための計画を、図書館教育担当が主導で立案し、運営していきます。

・図書館資料とインターネット情報の複数の情報にあたり、信頼性を検討することにより、さらに正確な情報を集めてまとめていくというリテラシーを高める必要があります。

(3) 子どもの読書に関する理解の促進

① 「富士見町家庭読書の日 どくしょカード」の活用（小学校）

家庭への働きかけとして、子どもの読書活動推進委員会が発行する「富士見町家庭読書の日 どくしょカード」を活用して、子どもたち及び保護者へ家庭で読書に親しむ機会を提供します。

② 学校だより等を活用した保護者への情報提供・啓発（小学校）

アンケート結果から、保護者の多くが「家庭読書の日」を知らないことがわかったため、学校だよりや図書館だよりを通じて、「家庭読書の日」の目的を周知し、保護者の家庭での取組の好事例を紹介し、「家読（うちどく）」を推進します。

(4) 家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館などの連携・協力

① 読み聞かせの実施（小学校）

子どもが読書の楽しさを実感できるように、保護者やボランティア団体、町図書館と連携し、読み聞かせを行います。

② 学校図書館 読書チャンピオン（小学校・中学校）

「学校図書館 読書チャンピオン」は、学校図書館の本を多く読んだ児童・生徒を表彰します。イベントについて児童生徒へ周知し、読書活動を推進します。

IV. ボランティア団体における読書活動の推進

1. ボランティア団体の役割

家庭、保育園、学校及び図書館と同様に、子どもの読書活動の推進において重要な役割を果たしています。それぞれと連携・協力し、発達段階に応じた本の読み聞かせや紹介を行い、読書の楽しさや興味を引き出します。また、子どもだけでなく、保護者への情報提供を通じて、子どもの読書活動の重要性を伝えています。

2. ふじみ子どもの本の会の取組

(1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

① おはなし会などへの協力

町図書館が開催する土曜日のおはなし会に協力し、子どもの年齢に応じた読み聞かせやおすすめ本の紹介をします。また、保護者へ読み聞かせのアドバイスも行います。

(2) 子どもの読書環境の整備・充実

① 研修の実施

外部研修や講座等の情報を共有し、積極的に参加して、読み聞かせの技術向上に努めます。

(3) 家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館などの連携・協力

① イベントへの協力

町図書館で実施するイベントに協力します。子どもに絵本の楽しさを知ってもらう内容を考えて提供します。

② 読み聞かせの実施

町内保育園、小学校へ読み聞かせに、継続して協力します。

V. 町図書館における読書活動の推進

1. 町図書館の役割

図書館は、子どもたちに読書を楽しむ機会を提供し、読書習慣を育むための重要な拠点です。また、企画展示やおはなし会、イベントなどを開催することにより、子どもたちの読書意欲を高める役割を果たしています。

さらに、さまざまな背景を持つ子どもたちが平等に読書にアクセスできる環境を整備します。バリアフリー法に基づき、点字図書や多言語図書などの収集に努めるとともに、アクセシブルな電子書籍などの導入などを通じて、すべての子どもたちが読書に楽しむことができる環境づくりをすすめます。

加えて、保育園や学校等と連携し、子どもたちの自主的・自発的な学習活動を支援します。

2. 町図書館における取組

(1) 子どもが読書に親しむ機会の提供

① おはなし会の実施

・毎週火曜日と土曜日に、親子を対象とした「おはなし会」を開催し、絵本の楽しさを

伝えます。また、季節に応じたおはなし会イベント「図書館まつり」を開催し、乳幼児期から絵本に親しむ機会を積極的に提供します。

・土曜日は、ボランティア団体の協力のもと開催します。

② 児童書のテーマごとの展示

毎月テーマを設け、児童書の展示を行うことで、子どもたちが新たな一冊との出会いを楽しめるよう支援します。さらに、児童コーナーの季節装飾を通して、図書館で楽しく過ごせる環境づくりに努めます。

③ 英語のおはなし会の開催

ボランティアの協力のもと、毎月1回、英語のおはなし会を開催し、子どもたちの語学学習を支援します。

(2) 子どもの読書環境の整備・充実

① 中学生・高校生に向けた図書の充実

ティーンズコーナーでは、中学生・高校生からのリクエストに基づき、読みたい本や必要な資料を積極的に収集し、図書館の利用促進を図ります。

② 読書バリアフリーコーナーの設置

読書バリアフリー法に基づき、「読書バリアフリーコーナー」を設置し、障がいの有無や母国語に関わらず、すべての子どもたちが読書を楽しめる環境を整えます。触れる絵本、LLブック、点字資料、多言語資料などを収集し、充実を図ります。

③ 「デジとしょ信州」の周知

電子図書館「デジとしょ信州（※3）」を積極的に紹介し、子どもたちが多様な学びの機会を得られるよう支援します。

※3 デジとしょ信州：令和4年8月に開設された長野県と県内すべての市町村が参加する協働電子図書館。

④ 図書館の情報提供

ホームページや毎月発行するチラシを通じて、図書館のイベントや新着図書などを積極的に周知します。また、館内の図書検索機やインターネット（すわズラ〜）を活用し、利用者が簡単に情報収集できるよう支援します。

(3) 子どもの読書に関する理解の促進

① 「子ども読書の日」の趣旨普及

4月23日の「子ども読書の日」と4月23日から5月12日の「子ども読書週間」の普及に努めます。特に、4月にはボランティア団体と協力し、「子ども読書の日スペシャル」と題したおはなし会を開催します。

② 「家庭読書の日」の普及

アンケート結果から、「家庭読書の日」があまり知られていないことが明らかとなりました。毎月第3日曜日は「家庭読書の日」であることを広く周知し、家庭での読書習慣定

着を図ります。前日の土曜日と合わせて貸出冊数を 20 冊に増やすなど、家庭での読書環境を支援します。

③ 「富士見町家庭読書の日 どくしょカード」

家庭への働きかけとして、保育園や小学校に「富士見町家庭読書の日 どくしょカード」を配布し、子どもと保護者が一緒に読書記録や感想を記入することで、親子で読書を楽しむ機会を提供します。

(4) 家庭、保育園、学校、ボランティア団体、図書館などの連携・協力

① 図書の貸し出し

町図書館と学校図書館は、相互に情報を共有し、図書の貸し出しを行うことで、学校図書館の活性化に努めます。特に、特別支援学級や特別支援学校等への資料の貸出しを積極的に行い、すべての児童生徒が読書の機会に恵まれるよう支援します。また、地域の諸団体への図書の貸出しも行い、地域全体で読書活動の推進を図ります。

② 図書館見学の支援

保育園や小学校低学年を対象とした図書館見学を積極的に受け入れ、子どもたちが図書館を身近な場所として感じられるよう、読み聞かせや図書館案内を行います。これらの活動を通して、子どもたちの読書習慣の定着を図ります。

③ 職場体験・ボランティア・デュアルシステムの受け入れ

中学校で行われている職場体験や、社会福祉協議会事業でのボランティア、特別支援学校のデュアルシステムにおいて、図書館業務の体験を受け入れます。図書館業務を体験することで、児童や生徒は図書館を身近な場として捉え、読書への興味関心を深めることができます。

④ 児童生徒との連携

小学生や中学生、高校生参加のおはなし会やイベントを開催し、生徒の自主的な活動を支援します。

⑤ 読書チャンピオンの実施

学校図書館で多くの本を読んだ児童や生徒を表彰する「読書チャンピオン」を開催します。学校図書館と連携し、子どもたちの自主的に読書活動を行うことを促進します。

⑥ 地域の施設への支援

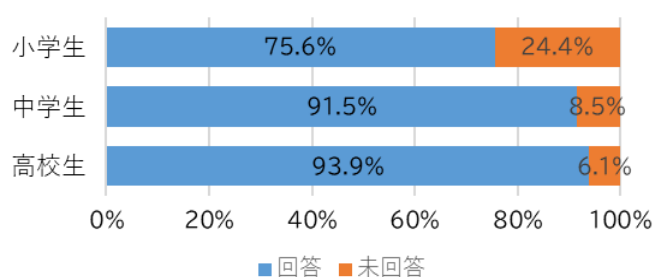
放課後の居場所として公民館を開放している地域施設に対し、図書の貸し出しなどの活動支援を行います。

資 料

令和6年度 富士見町子ども読書活動推進計画に関するアンケート調査結果 【小学生・中学生・高校生】

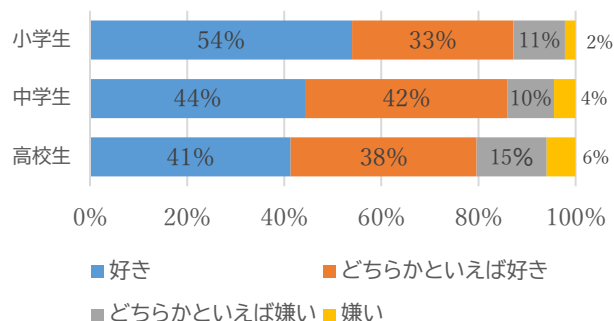
実施時期：令和 6 年 7 月	対 象 者：小学生	672 名
	中学生	343 名
	高校生	214 名
	合 計	1,229 名

	児童生徒数	回答数	割合
小学生	672	508	75.6%
中学生	343	314	91.5%
高校生	214	201	93.9%
合計	1,229	1,023	83.2%



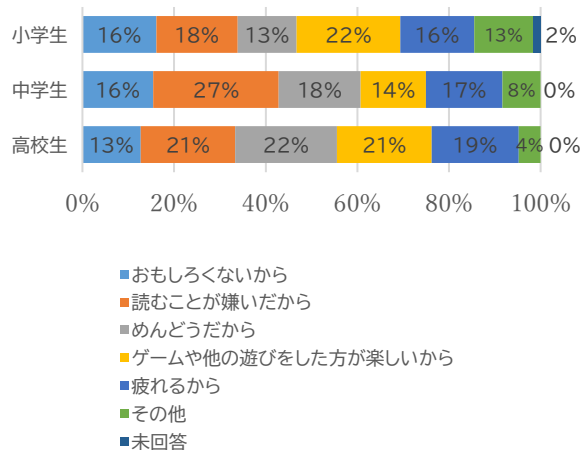
Q1 本を読むことは好きですか

	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	合計
小学生	274	169	54	11	508
中学生	139	131	30	14	314
高校生	83	77	29	12	201
合計	496	377	113	37	1,023



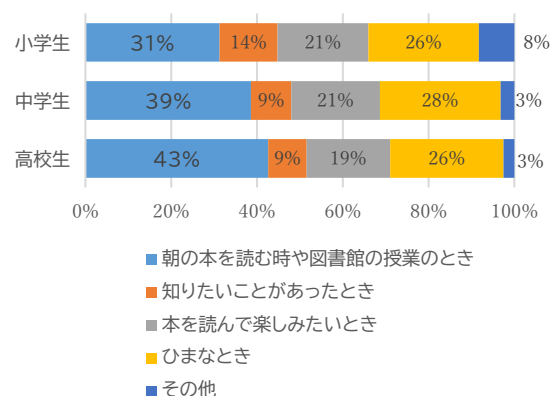
Q2 どうして本を読むことがきらいですか。あてはまるものすべて選んでください。

	おもしろくないから	読むことが嫌いだから	めんどうだから	ゲームや他の遊びをした方が楽しいから	疲れるから	その他	未回答	合計
小学生	10	11	8	14	10	8	1	62
中学生	13	23	15	12	14	7	0	84
高校生	8	13	14	13	12	3	0	63
合計	31	47	37	39	36	18	1	209



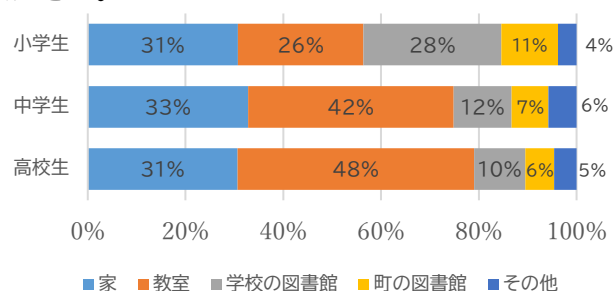
Q3 いつ本を読みますか。あてはまるものすべて選んでください。

	朝の本を読む 時や図書館の 授業のとき	知りたいこ とがあった とき	本を読んで 楽しみたい とき	ひまな とき	その他	合計
小学生	295	128	200	243	78	944
中学生	239	58	128	174	20	619
高校生	153	32	70	95	9	359
合計	687	218	398	512	107	1,922



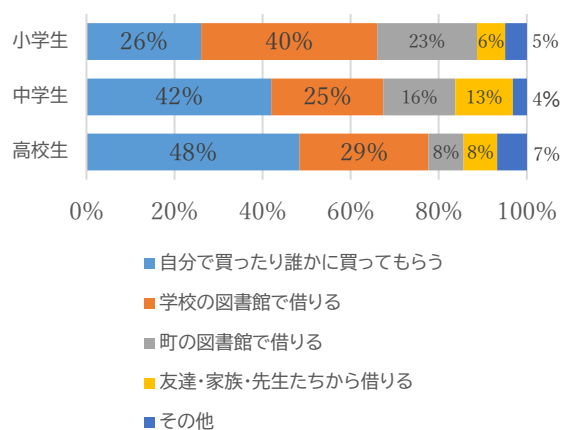
Q4 どこで本を読みますか。あてはまるものすべて選んでください。

	家	教室	学校の図書館	町の図書館	その他	合計
小学生	377	315	346	142	47	1,227
中学生	210	269	76	48	37	640
高校生	114	180	39	22	17	372
合計	701	764	461	212	101	2,239



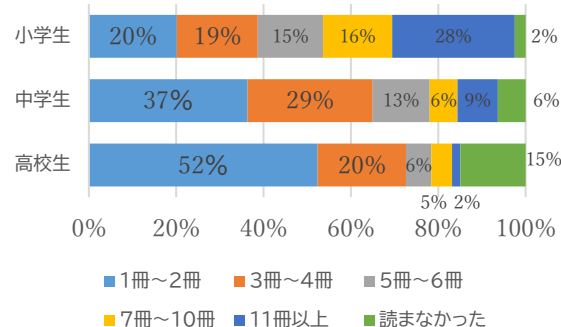
Q5 読みたい本があるときはどうしますか？あてはまるものすべて選んでください。

	自分で買ったり 誰かに買って もらう	学校の図書 館で借りる	町の図書館 で借りる	友達・家族・ 先生たちから 借りる	その他	合計
小学生	234	360	204	58	44	900
中学生	251	152	98	78	19	598
高校生	158	96	26	25	22	327
合計	643	608	328	161	85	1,825



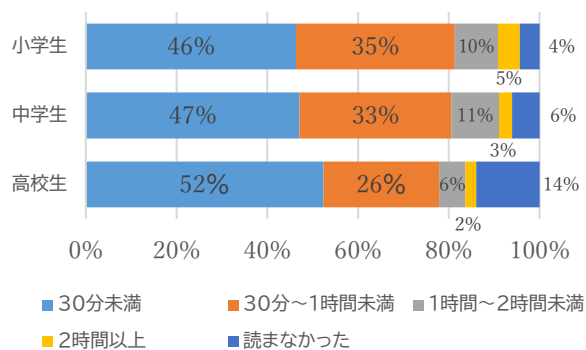
Q6 1カ月の間に何冊本を読みますか。

	1冊～2冊	3冊～4冊	5冊～6冊	7冊～10冊	11冊 以上	読まな かった	合計
小学生	97	89	72	76	135	12	481
中学生	114	90	41	20	29	20	314
高校生	109	42	12	10	4	31	208
合計	320	221	125	106	168	63	1,003



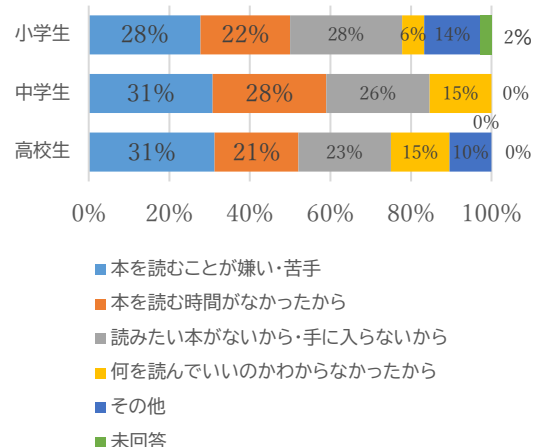
Q7 1日にどのくらい本を読みますか？

	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間以上	読まなかった	合計
小学生	223	168	46	23	21	481
中学生	148	105	33	9	19	314
高校生	109	53	12	5	29	208
合計	480	326	91	37	69	1,003



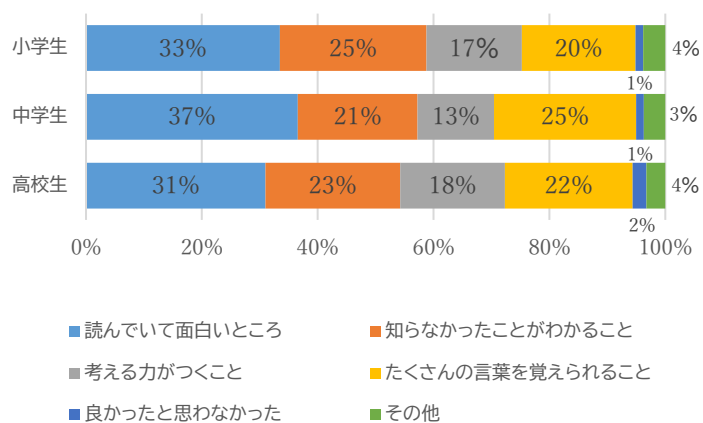
Q8 本を読まなかったのはなぜですか。あてはまるものすべて選んでください。

	本を読むことが嫌い・苦手	本を読む時間がなかったから	読みたい本がないから・手に入らないから	何を読んでいいのかわからなかったから	その他	未回答	合計
小学生	10	8	10	2	5	1	36
中学生	12	11	10	6	0	0	39
高校生	15	10	11	7	5	0	48
合計	37	29	31	15	10	1	123



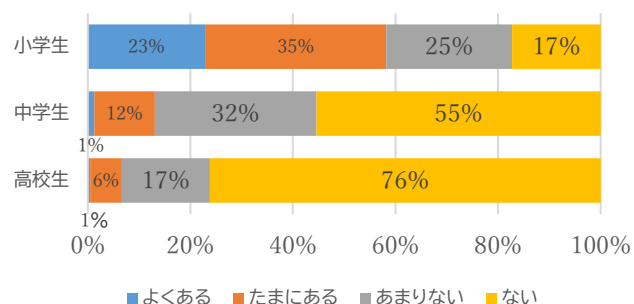
Q9 本を読んでいて良かったと思うことは何ですか。あてはまるものすべて選んでください。

	読んでいて面白いところ	知らなかったことがわかること	考える力がつくこと	たくさんの言葉を覚えられること	良かったと思わなかった	その他	合計
小学生	370	280	182	217	15	42	1,106
中学生	255	144	92	171	9	26	697
高校生	132	99	77	94	10	14	426
合計	757	523	351	482	34	82	2,229



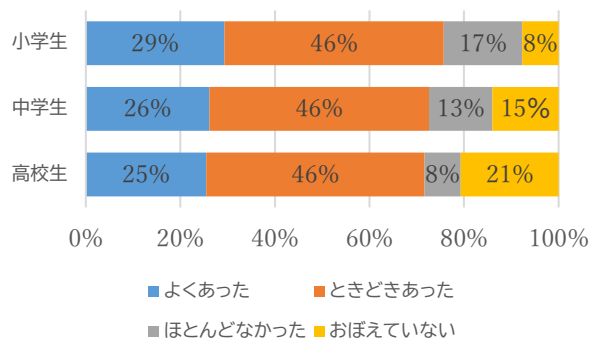
Q10 家族といっしょに本を読むことはありますか。

	よくある	たまにある	あまりない	ない	合計
小学生	110	170	118	83	481
中学生	4	37	99	174	314
高校生	1	13	36	160	210
合計	115	220	253	417	1,005



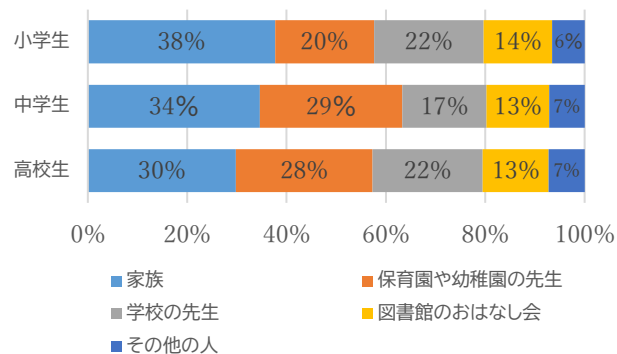
Q11 誰かに本を読んでもらったことはありますか。

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	おぼえていない	合計
小学生	141	223	80	37	481
中学生	82	146	42	44	314
高校生	53	96	16	43	208
合計	276	465	138	124	1,003



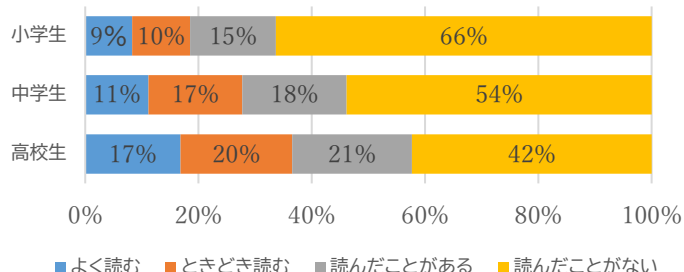
Q12 本を読んできたのは誰ですか。あてはまるものすべて選んでください。

	家族	保育園や幼稚園の先生	学校の先生	図書館のおはなし会	その他の人	合計
小学生	369	195	216	135	64	979
中学生	228	189	112	83	47	659
高校生	132	122	98	59	32	443
合計	729	506	426	277	143	2,081



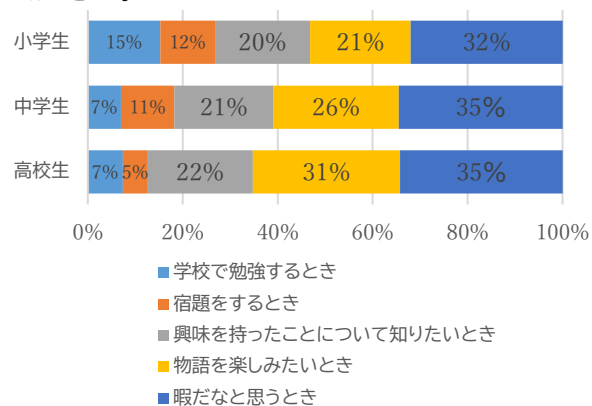
Q13 スマホやタブレット、パソコンで本を読むことはありますか。

	よく読む	ときどき読む	読んだことがある	読んだことがない	合計
小学生	40	49	73	319	481
中学生	35	52	58	169	314
高校生	35	41	44	88	208
合計	110	142	175	576	1,003



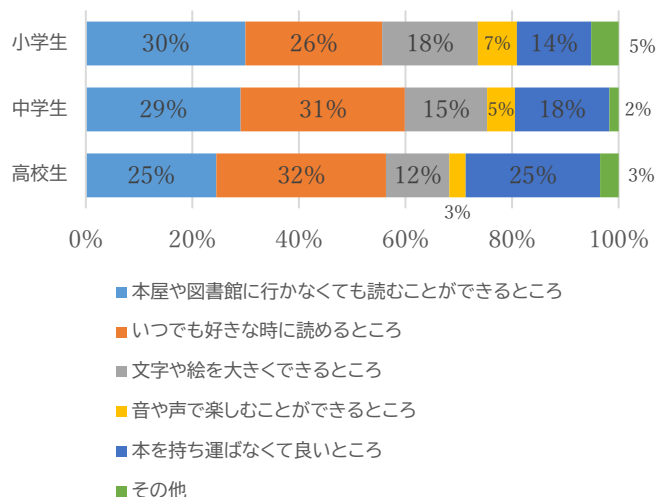
Q14 どんな時に読みますか。あてはまるものすべて選んでください。

	学校で勉強するとき	宿題をするとき	興味を持ったことについて知りたいとき	物語を楽しみたいとき	暇だなど思うとき	合計
小学生	41	31	54	57	86	269
中学生	18	29	54	68	89	258
高校生	14	10	42	59	65	190
合計	73	70	150	184	240	717



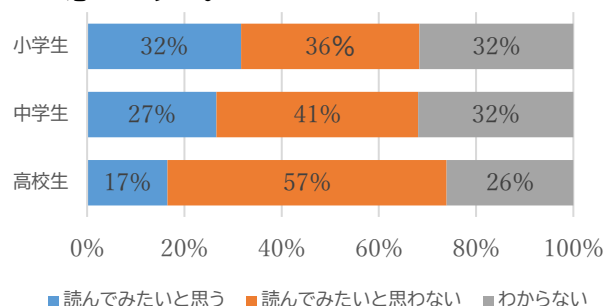
Q15 スマホやタブレット、パソコンを使って本を読むことの良いところは何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

	本屋や図書館に行かなくても読むことができるところ	いつでも好きな時に読めるところ	文字や絵を大きくできるところ	音や声で楽しむことができるところ	本を持ち運ばなくて良いところ	その他	合計
小学生	110	94	66	27	51	19	367
中学生	100	106	53	18	61	6	344
高校生	64	83	31	8	66	9	261
合計	274	283	150	53	178	34	972



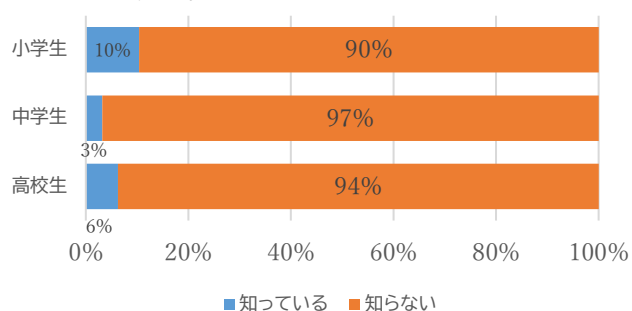
Q16 スマホやタブレット、パソコンを使って本を読みたいと思いますか。

	読みたいと思う	読みたいと思わない	わからない	合計
小学生	101	117	101	319
中学生	45	70	54	169
高校生	19	66	30	115
合計	165	253	185	603



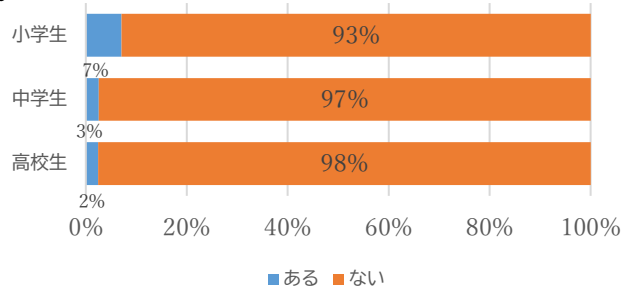
Q17 「デジとしよ信州」というデジタル図書館のことを知っていますか。

	知っている	知らない	合計
小学生	50	431	481
中学生	10	304	314
高校生	13	195	208
合計	73	930	1,003



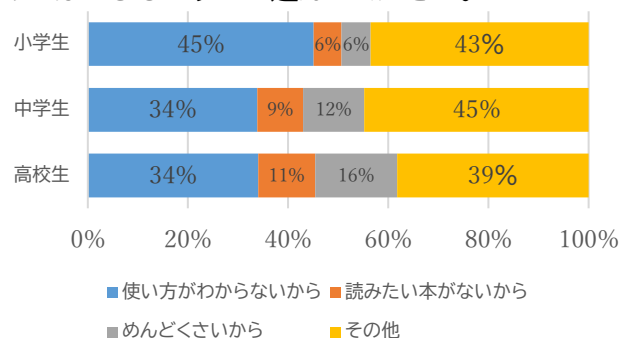
Q18 「デジとしよ信州」で本を読んだことはありますか。

	ある	ない	合計
小学生	34	447	481
中学生	8	306	314
高校生	5	200	205
合計	47	953	1,000



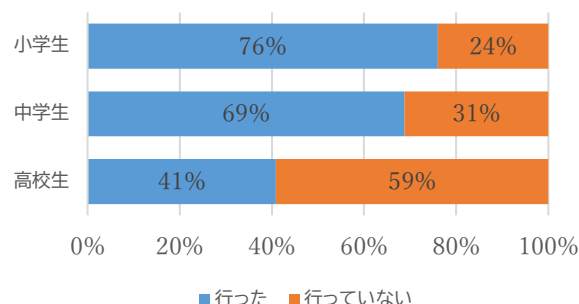
Q19 「デジとしよ信州」で本を読まないのはなぜですか。あてはまるものすべて選んでください。

	使い方がわからないから	読みたい本がないから	めんどくさいから	その他	合計
小学生	234	29	30	226	519
中学生	130	35	47	172	384
高校生	81	27	39	91	238
合計	445	91	116	489	1,141



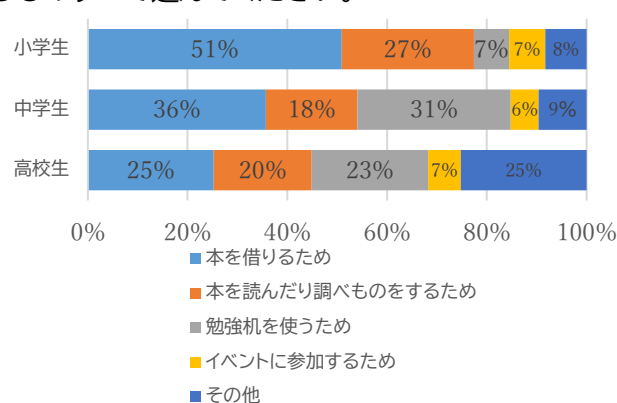
Q20 1年の間に富士見町図書館に行きましたか。

	行った	行っていない	合計
小学生	365	115	480
中学生	216	98	314
高校生	85	123	208
合計	666	336	1,002



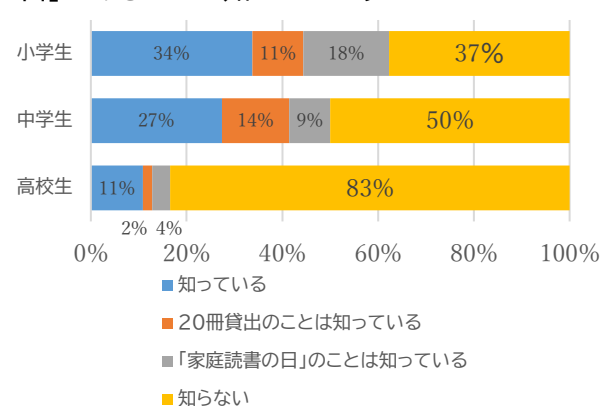
Q21 どうして富士見町図書館に行きましたか。あてはまるものすべて選んでください。

	本を借りるため	本を読んだり調べものをするため	勉強机を使うため	イベントに参加するため	その他	合計
小学生	288	150	40	41	47	566
中学生	115	59	99	18	31	322
高校生	27	21	25	7	27	107
合計	430	230	164	66	105	995



Q22 富士見町図書館で本が20冊借りられる「家庭読書の日」があることを知っていますか

	知っている	20冊貸出のことは知っている	「家庭読書の日」のことは知っている	知らない	合計
小学生	162	51	86	181	480
中学生	86	44	27	157	314
高校生	23	4	8	176	211
合計	271	99	121	514	1,005



令和6年度 富士見町子ども読書活動推進計画に関するアンケート調査結果

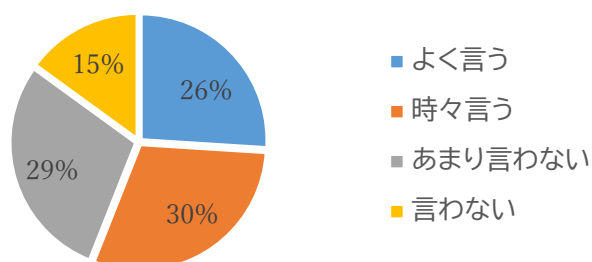
【小学校(1・2年生) 保護者】

実施時期：令和6年7月

回答者：86名

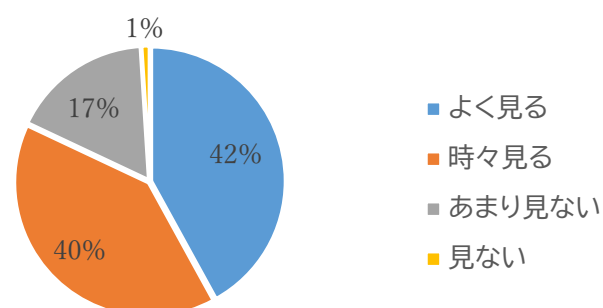
Q1 お子さんは、本や絵本を読んでほしいと言いますか

よく言う	22
時々言う	26
あまり言わない	25
言わない	13
合計	86



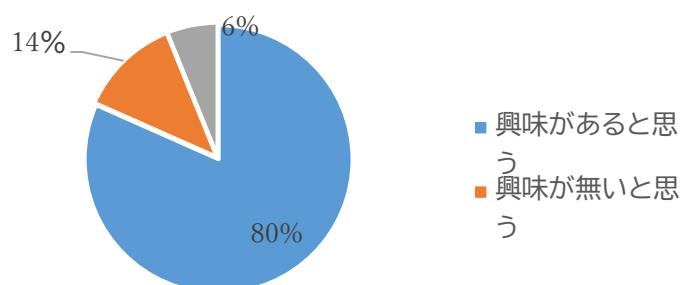
Q2 お子さんは、自ら本や絵本を見ますか

よく見る	36
時々見る	34
あまり見ない	15
見ない	1
合計	86



Q3 お子さんは、本や絵本に興味があると思いますか

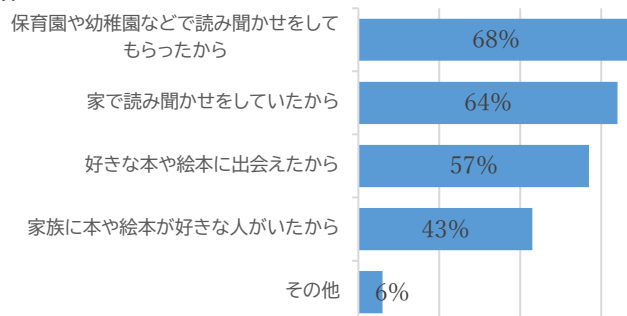
思う	69
思わない	12
わからない	5
合計	86



Q4 お子さんが興味を持ったきっかけは何だと思いますか

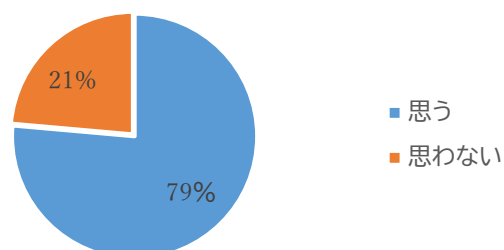
(Q3「興味があると思う」と回答した方のみ:複数回答)

保育園や幼稚園などで読み聞かせをしてもらったから	47
家で読み聞かせをしていたから	44
好きな本や絵本に出会えたから	39
家族に本や絵本が好きな人がいたから	30
その他	4
合計	164



Q5 お子さんに読み聞かせをしてあげたいと思いますか

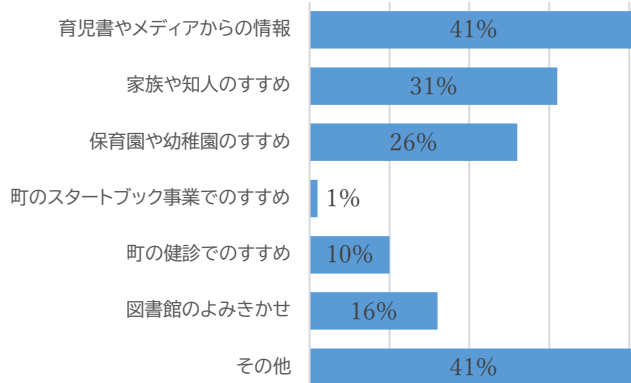
思う	68
思わない	18
合計	86



Q6 読み聞かせをしたいと思ったきっかけは何ですか

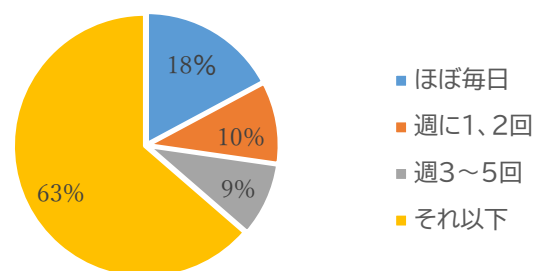
(Q5「読み聞かせをしてあげたいと思う」と回答したかたのみ:複数回答)

育児書やメディアからの情報	28
家族や知人のすすめ	21
保育園や幼稚園のすすめ	18
町のスタートブック事業でのすすめ	1
町の健診でのすすめ	7
図書館のよみきかせ	11
その他	28
合計	114



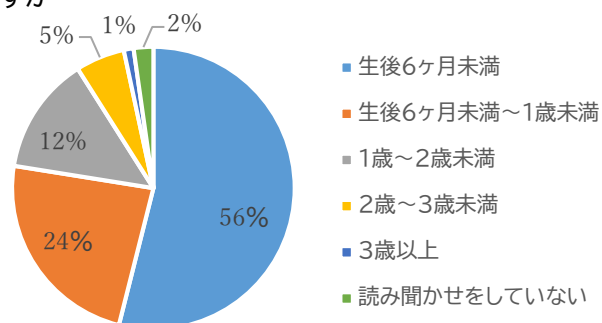
Q7 家庭ではどのくらいの頻度で読み聞かせをしていますか

ほぼ毎日	15
週に1、2回	9
週3～5回	8
それ以下	54
合計	86



Q8 お子さんが初めて読み聞かせを体験したのはいつですか

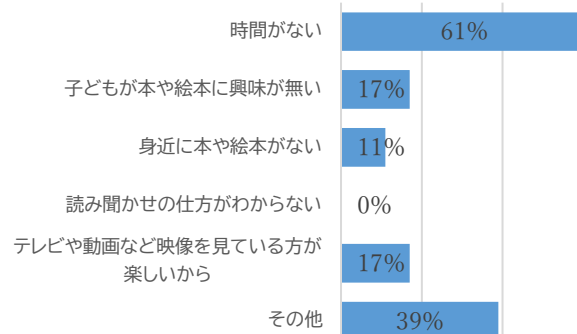
生後6ヶ月未満	48
生後6ヶ月未満～1歳未満	21
1歳～2歳未満	10
2歳～3歳未満	4
3歳以上	1
読み聞かせをしていない	2
合計	86



Q9 読み聞かせをしていない、しようと思わなかった理由は何ですか

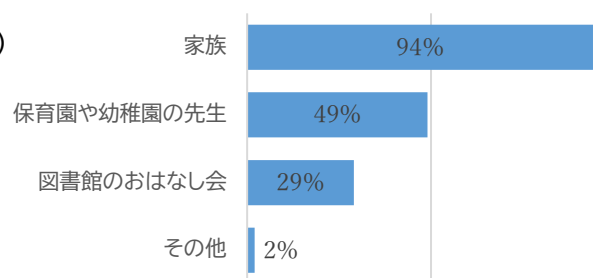
(Q5「読み聞かせをしたいと思わない」 Q8「読み聞かせをしていない」と回答した方のみ:複数回答)

時間がない	11
子どもが本や絵本に興味が無い	3
身近に本や絵本がない	2
読み聞かせの仕方がわからない	0
テレビや動画など映像を見ている方が楽しいから	3
その他	7
合計	26



Q10 読み聞かせはどなたがしましたか(複数回答)

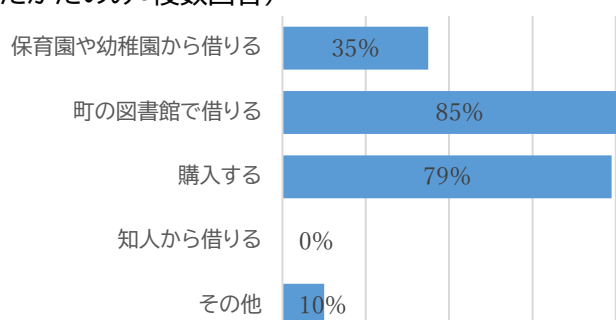
家族	81
保育園や幼稚園の先生	42
図書館のおはなし会	25
その他	2
合計	150



Q11 お子さんに読み聞かせしたいと思う本や絵本はどのように用意しますか

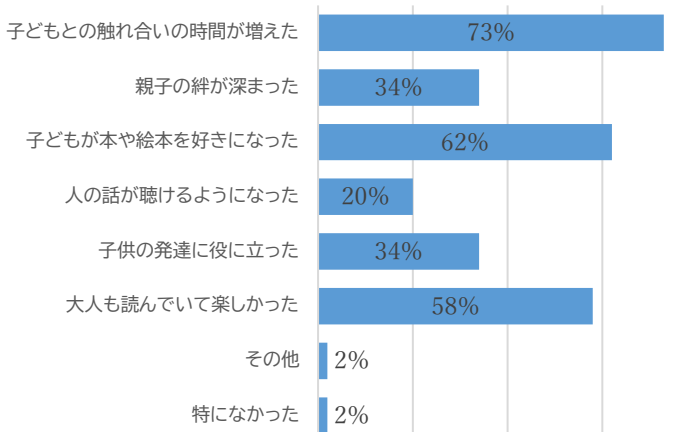
(Q5「読み聞かせをしてあげたいと思う」と回答した方のみ:複数回答)

保育園や幼稚園から借りる	24
町の図書館で借りる	58
購入する	54
知人から借りる	0
その他	7
合計	143



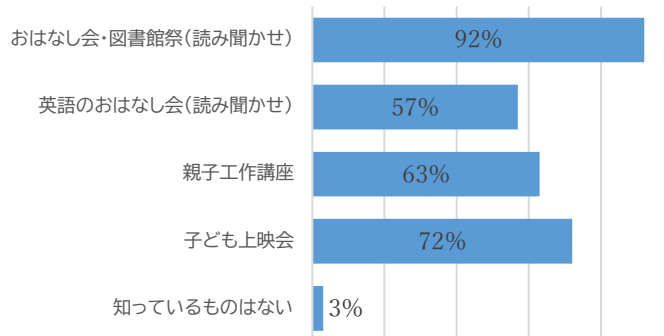
Q12 読み聞かせをしてよかったことは何ですか(複数回答)

子どもとの触れ合いの時間が増えた	63
親子の絆が深まった	29
子どもが本や絵本を好きになった	53
人の話が聴けるようになった	17
子供の発達に役に立った	29
大人も読んでいて楽しかった	50
その他	2
特になかった	2
合計	245



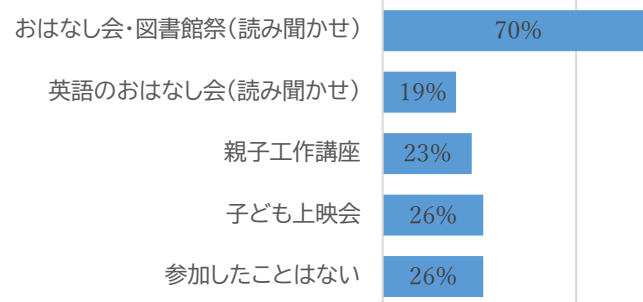
Q13 町図書館が行っている子ども向け行事で知っているものはどれですか(複数回答)

おはなし会・図書館祭(読み聞かせ)	79
英語のおはなし会(読み聞かせ)	49
親子工作講座	54
子ども上映会	62
知っているものはない	3
合計	247



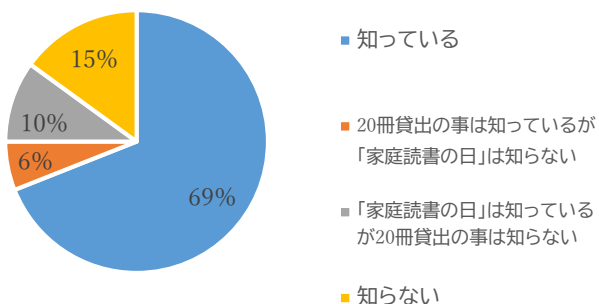
Q14 参加したことがある行事はありますか(複数回答)

おはなし会・図書館祭(読み聞かせ)	60
英語のおはなし会(読み聞かせ)	16
親子工作講座	20
子ども上映会	22
参加したことはない	22
合計	140



Q15 富士見町図書館では、20冊貸出ができる「家庭読書の日」があることを知っていますか

知っている	59
20冊貸出の事は知っているが「家庭読書の日」は知らない	5
「家庭読書の日」は知っているが20冊貸出の事は知らない	9
知らない	13
合計	86



令和6年度 富士見町子ども読書活動推進計画に関するアンケート調査結果

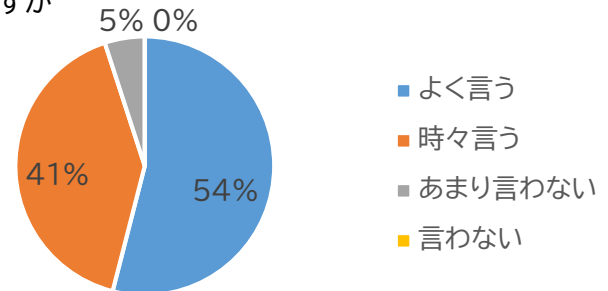
【保育園 保護者】

実施時期：令和6年7月

回答者：123名

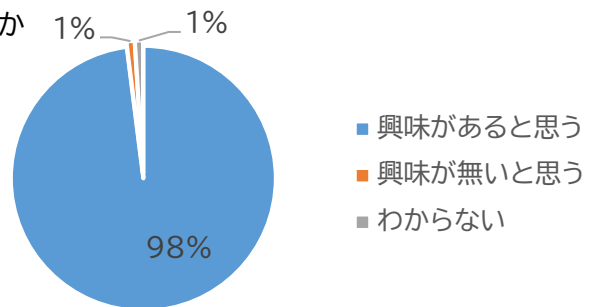
Q1 お子さんは、本や絵本を読んでほしいと言いますか

よく言う	67
時々言う	50
あまり言わない	6
言わない	0
合計	123



Q2 お子さんは、本や絵本に興味があると思いますか

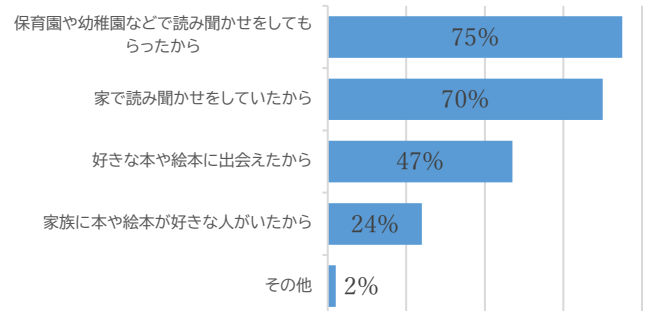
思う	121
思わない	1
わからない	1
合計	123



Q3 お子さんが興味を持ったきっかけは何だと思いますか

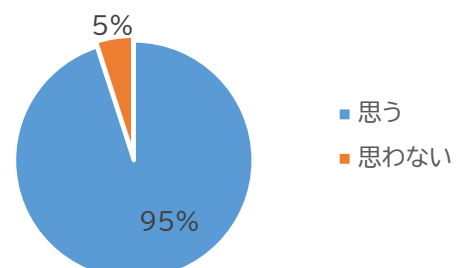
(Q2「興味があると思う」と回答した方のみ)

保育園や幼稚園などで読み聞かせをもらったから	91
家で読み聞かせをしていたから	85
好きな本や絵本に出会えたから	57
家族に本や絵本が好きな人がいたから	29
その他	29
合計	291



Q4 お子さんに読み聞かせをしてあげたいと思いますか

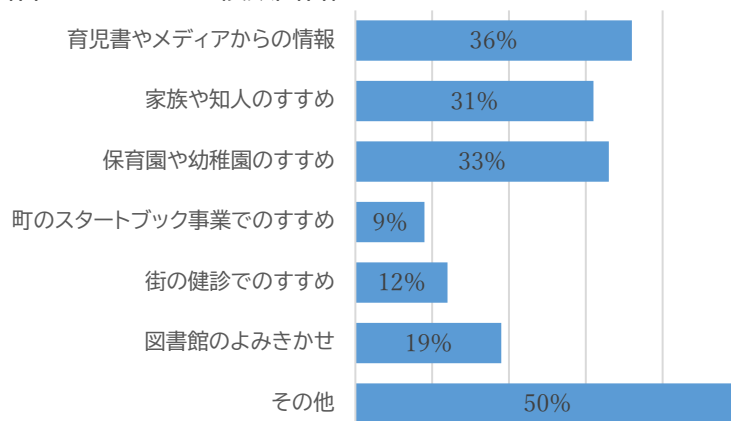
思う	117
思わない	6
合計	123



Q5 読み聞かせをしたいと思ったきっかけは何ですか

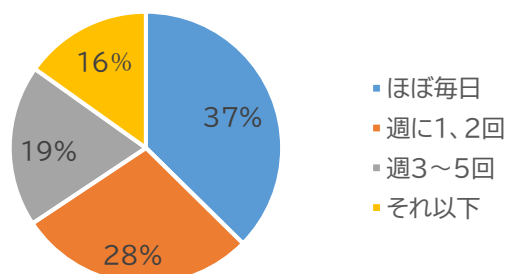
(Q4「読み聞かせをしてあげたいと思う」と回答したかたのみ:複数回答)

育児書やメディアからの情報	42
家族や知人のすすめ	31
保育園や幼稚園のすすめ	33
町のスタートブック事業での すすめ	9
町の健診でのすすめ	12
図書館のよみきかせ	19
その他	50
合計	196



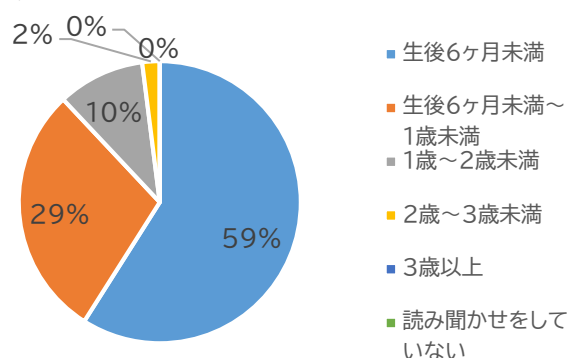
Q6 家庭ではどのくらいの頻度で読み聞かせをしていますか

ほぼ毎日	46
週に1、2回	35
週3～5回	23
それ以下	19
合計	123



Q7 お子さんが初めて読み聞かせを体験したのはいつですか

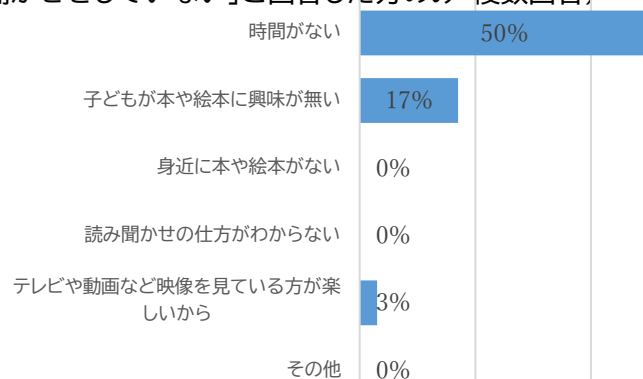
生後6ヶ月未満	73
生後6ヶ月未満～1歳未満	36
1歳～2歳未満	12
2歳～3歳未満	2
3歳以上	0
読み聞かせをしていない	0
合計	123



Q8 読み聞かせをしていない、しようと思わなかった理由は何ですか

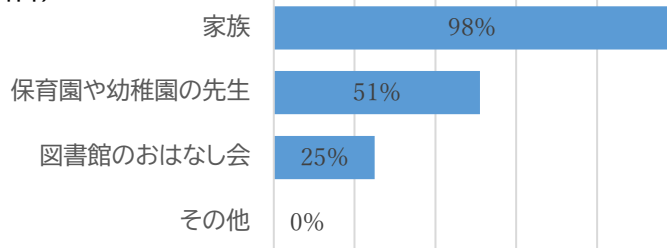
(Q4「読み聞かせをしたいと思わない」 Q7「読み聞かせをしていない」と回答した方のみ:複数回答)

時間がない	3
子どもが本や絵本に興味が無い	1
身近に本や絵本がない	0
読み聞かせの仕方がわからない	0
テレビや動画など映像を見ている方が楽しいから	3
その他	0
合計	7



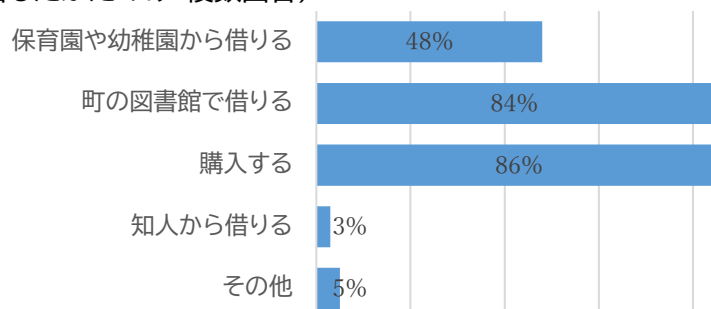
Q9 読み聞かせはどなたがしましたか(複数回答)

家族	121
保育園や幼稚園の先生	51
図書館のおはなし会	25
その他	0
合計	197



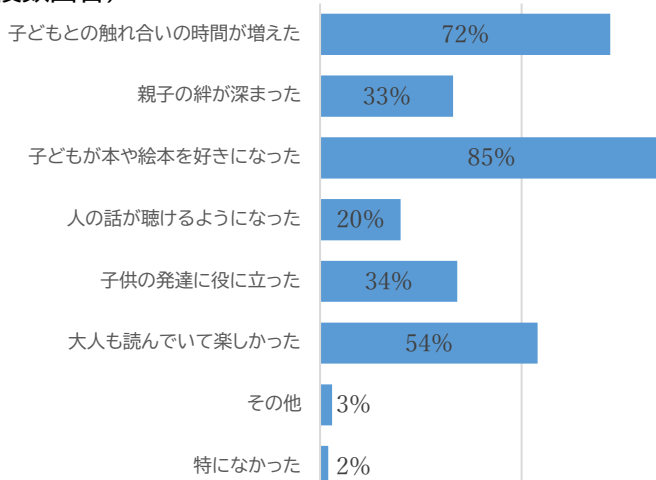
Q10 お子さんに読み聞かせしたいと思う本や絵本はどのように用意しますか
(Q4「読み聞かせをしてあげたいと思う」と回答したかたのみ:複数回答)

保育園や幼稚園から借りる	56
町の図書館で借りる	84
購入する	86
知人から借りる	3
その他	6
合計	235



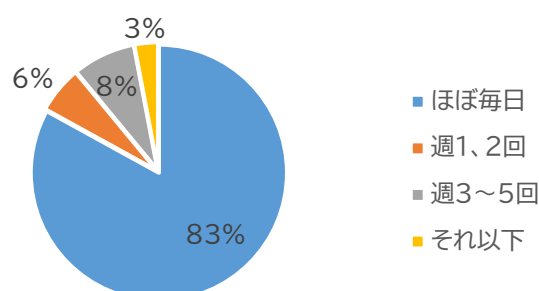
Q11 読み聞かせをしてよかったことは何ですか(複数回答)

子どもとの触れ合いの時間が増えた	89
親子の絆が深まった	40
子どもが本や絵本を好きになった	105
人の話が聴けるようになった	25
子供の発達に役に立った	42
大人も読んでいて楽しかった	67
その他	4
特になかった	2
合計	374



Q12 お子さんは、スマホ・タブレット・TVなどで動画をどのくらいの頻度で見ますか

ほぼ毎日	102
週1、2回	7
週3～5回	10
それ以下	4
合計	123



Q13 町図書館が行っている子ども向け行事で知っているものはどれですか

おはなし会・図書館祭(読み聞かせ)	105
英語のおはなし会(読み聞かせ)	49
親子工作講座	41
子ども上映会	67
知っているものはない	16
合計	278

おはなし会・図書館祭(読み聞かせ)

85%

英語のおはなし会(読み聞かせ)

49%

親子工作講座

41%

子ども上映会

67%

参加したことは無い

16%

Q14 参加したことがある行事はありますか(複数回答)

おはなし会・図書館祭(読み聞かせ)	70
英語のおはなし会(読み聞かせ)	16
親子工作講座	13
子ども上映会	16
参加したことは無い	50
合計	165

おはなし会・図書館祭(読み聞かせ)

57%

英語のおはなし会(読み聞かせ)

13%

親子工作講座

11%

子ども上映会

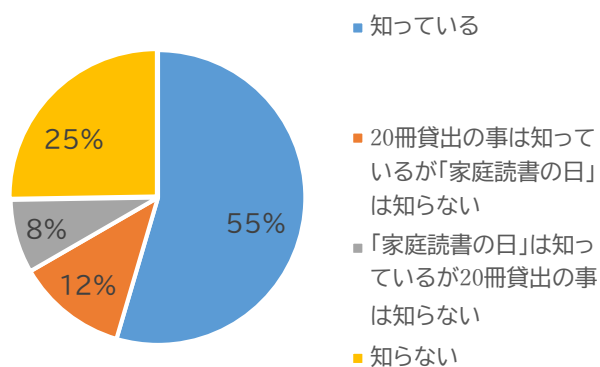
13%

参加したことはない

41%

Q15 富士見町図書館では、20冊貸出ができる「家庭読書の日」があることを知っていますか

知っている	67
20冊貸出の事は知っているが「家庭読書の日」は知らない	15
「家庭読書の日」は知っているが20冊貸出の事は知らない	10
知らない	31
合計	123



第4次富士見町子ども読書活動推進計画

発行 令和7年（2025年）3月

編集 富士見町教育委員会
（生涯学習課 図書館博物館係）

〒399-0211 長野県諏訪郡富士見町富士見 3597 番地 1

TEL 0266-62-7930 FAX 0266-62-7611